

[大宜見洋文議員 登壇]

○4 番 大宜見洋文君 4 番 大宜見洋文、通告書にしたがいまして、今回はこれまでよりも質問数を絞って、それでも 5 つの質問になりますけれどもよろしくお願いします。

では、さっそく 1 問 1 答で進めさせていただきます。質問 1. 児童館のさらなる有効活用の可能性はについてです。これは午前中の浦崎議員の質問 2、子どもの貧困対策についての、特に (3) に出ました子ども食堂に関連していて、マスコミでも連日特集が組まれるほど喫緊の課題であること、そしてそれに加えて 11 月 12 日に庁議室で開催された少年非行とその背景をテーマにした山内優子先生の講演と、11 月 17 日に開催された南風原町社協 40 年記念第 6 回南風原町社会福祉大会での社会的孤立ゼロを目指してのシンポジウムでの南風原町課題解決に向けての提言も加味して、どういう施策の可能性があるのかをお聞きしたいということでの質問です。(1) 新生児を家庭で育てている保護者の居場所づくりとして、児童館では幼児クラブを設置している。認可保育園や小規模保育施設と連携した事業展開ができないか。(2) 夕方から深夜に児童館で貧困世帯の児童生徒の受入や深夜勤務の母子家庭の預かり対応ができないか。以上、よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項 1 点目、児童館のさらなる有効活用の可能性は (1) についてお答えします。家庭で保育をされている方の居場所づくりには、地域での子育てサロン、児童館での幼児クラブ、子育て支援センター等の取組があります。ご質問の件については、児童館の活用策として検討をしております。

(2) についてであります。貧困世帯の児童生徒に関しては、孤食対策としての取組について、児童館での実施可能性について県内事例も含めて調査を進めているところです。深夜勤務の母子家庭の預かりについては、宿泊も含めた子育て短期支援事業となるため、現段階では児童館の活用は検討しておりません。以上です。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 (1) について再質問をします。転入してきた方への周知はどのようなになされているかをお願いします。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 お答えします。児童館は毎月、児童館のスケジュール表を作ってそれを町のホームページに掲載しております。周知方法としてはこれがメインですが、

その他個別具体的な事業がある場合は、町の広報も利用して町民の皆さんには随時知らせている状況でございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。転入してきた方々にとって地域とつながる第一歩となると思いますので、自治会加入の課題などにも効果があると思いますからぜひ自治会の会長、区長との連携での対応もぜひしていただきたいと思います。その意味でも、昨年、赤嶺奈津江議員からも質問がありました地域に身近な施設を利用しての子育て支援について、去った 9 月議会の現場調査で与那覇自治会でも開催されていることを知りました。この場に認可保育園の保育士などの協力もできれば、連携が強化されると思うのですがいかがですか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 赤嶺奈津江議員が去年の議会で質問をされた内容を受けまして、去年、子ども・子育て支援会議でもこの子どもの居場所などについて議論をしております。その結果、この計画書の中には公民館などの地域資源を活用し、小学生の放課後の居場所づくり、遊び場の確保を検討しますと書き込んでおります。そこでまずはその 1 つとして児童館の活用も検討を始めてまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 どのような手順で進める考えかお聞かせください。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 現在も南風原町には児童館が 4 小学校にそれぞれ 1 個ずつございます。そのなかに日ごろ放課後の子どもたちの活用もございますけれども、幼児クラブも活用しております。今回、新たに保育園からも子育ての支援として児童館を活用してお手伝いができるかも知れないと提案がございましたので、まずはその点につきまして認可保育園には園長会もございますからそのあたりに 4 児童館を活用してどのようなことができるのか話し合いからまずは始めていきたいと考えているところでございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 認可保育園園長会の皆さんが区長会とも意見交換する機会を作ってもらって、これからは自治会加入率アップにもつながる連携だと思いますのでぜひ異業種交流の意見交換から南風原町独自のうまい支援のアイデアが生まれることを期待して、次の(2)に移ります。

県外事例の内容はどのようなものなのか。先ほどの浦崎議員への答弁の再確認も含めてお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 浦崎議員の質問のなかにはありましたがいわゆる子ども食堂についてのことでございます。確認しますが、今現在、沖縄市と浦添市で、沖縄市のほうがマスコミに取り上げられまして、この子どもの孤食対策が脚光を浴びるようになっています。沖縄市はNPOが中心に行っていて、週1回土曜日、子どもたちに食事の対応をしているということです。もう1点調査しておりますのが浦添市で、児童センターでそれも週1回の土曜日、子どもたちに食事を提供しているという情報が入って調査を進めました。あと1点、日曜日に調査して分かったのが、同じ浦添市でここは週2回、孤食対策と学習支援も行っていると情報が入りましたので、これはまた年末か年明けに実際調査に行ってみようかと思っているところでございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 調査の結果、どのような課題が見つかったのか教えてください。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 実際に聞き取りをしたなかでは、沖縄市も浦添市もまずは食事を作る機材が挙げられました。あとは食材の調達、そしてそれを作っていただくボランティアの確保。この3つです。1つ重要な点で挙げられていたのが、ここに通う子どもたちに慎重に対応しなければいけないという点が両方から聞きました。いわゆる食事を食べにくることが分かって、またそれがいじめの対象になることが考えられるので、そのあたりをしっかりと慎重に対応して事業を進めていますとのことでした。この4点を聞き取りなどして確認しているところでございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 細かな調査ありがとうございました。気になるのがやはりボランティアの人材ですね。このへん、南風原町で取り組む場合に先日開催された山内優子先生の講演会のなかで 4 小学校区にしっかり児童館を配置している南風原町行政の高い評価がありました。その児童館施設を孤食対策に活用して、運営を学童クラブへ委託してはどうかという貴重な提言もありました。また、町社協の 40 年記念第 6 回町社会福祉大会でのシンポジウムのなかで、引きこもりやニートになる前のセーフティネットとしての学童クラブと若者支援の団体の今後果たす役割の重要性が明らかになっていると思います。児童館での孤食対策を学童クラブに委託する提言についてはどう考えていますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 現在、先ほども申しましたように、県内の事例を調べて回ったところ、そこはやはり NPO が中心に活動していることが分かっております。沖縄市然り。浦添市も児童センターを場所として活用していますが、そこは指定管理を受けたまちづくり NPO が運営していることも分かりました。ですから、方法としてはいろいろなものがあると考えています。学童に関してもちょうど今、町連協の皆さんと学童運営のガイドラインの読み合わせをしております。10 月から始めました。そのガイドラインの説明会をしているなかで、子どもの孤食対策についても話題に挙がっております。学童としてもその課題は認識しておりますが、手法としてはやはり先ほどの課題もございますので、材料の調達などもございます。今、新聞などもこの問題でかなり脚光を浴びてきておりますので、他の自治体も孤食対策は一斉に行われてくるものと考えております。そうするとやはり沖縄の先行事例は 2 カ所とも寄付などの行為によって調達されている部分もありますので、そのあたりが果たして持続可能かどうかを検証しながら、これから学童のことも含めながら南風原町として何が好ましいのか検討してまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 これから楽しみですと言いますか、児童館から遠い地域もありますので、近くにあるそういう学童クラブが利用できれば保護者の皆さんも助かると思うのですが、その点についてもぜひ検討していただきたいのですがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 先ほど答弁しましたように、あらゆる方法を検討して南風原町に合った方法で取り組みたいと思っています。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 どうもありがとうございました。沖縄県の貧困問題研究のスペシャリストである山内優子先生から貴重な提言を受けた時に、南風原町には地域警備の視点から県内でもトップレベルの質で個性的に取り組んでいる学童クラブがいくつもあり、この貴重な地域資源を使わない手はないと気づかされました。10 月 5 日に開催された町福祉推進計画ちむぐるプランの評価委員会を傍聴した際、前川副委員長からの発言から、東京都豊島区の豊島子どもWAKUWAKUネットワークの活動を知り、子ども食堂とプレパークの活動を私も調査しました。そこでは地域住民のボランティアに加えて、若者たちがキーパーソンになって活動をさらにレベルアップさせる原動力になっていると感じました。その点からも町社会福祉大会で神里博武先生からも紹介があった若者支援の団体も町内に拠点を置いて若者支援と学童クラブの融合した活動が始まっています。今後、他の学童クラブとの横の連携だけではなく、先ほどありました保育園を交えた、異年齢の立方的な連携が密になってどんな展開が始まるのか非常に注目していますので、町行政も連携して課題解決に向けてがんばって欲しいです。以上で質問 1 を終わります。

質問 2. 町内小中学校の情報共有のためのメーリングシステムについて (1) 各学校では学校行事や P T A、不審者情報などを保護者に連絡するツールとしてじんじんメール連絡網システムを利用している。各学校のじんじんメールの登録状況はどうか。(2) じんじんメール導入にあたり、他の業者のシステムとの比較はされたか。以上、よろしく願いします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 質問事項 2. 町内小中学校の情報共有のためのメーリングシステムに関するご質問にお答えいたします。(1)でございますが、登録状況につきましては、小学校平均約 87 パーセント、中学校平均約 70 パーセントとなっております。(2)の導入時の比較でございますけれども、導入当時、見積書等を徴取し、他システムと比較をして導入をいたしております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。私の子どもが通っている高校での保護者の登録状況がかなり低かったので、てっきり南風原町内も登録率が低いと思っていました。しかし、7 割以上の登録があるとありましたので、じんじんメールの普及がうまくいっているようで安心しました。ただ、残りの 3 割弱の保護者については、どうでしょうか。情報が得られず孤立していないか、そのあたりのフォローはできているか確認をしたいと思

います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 じんじんメールの登録状況です。小学校で 87 パーセント、中学校で 70 パーセント。あとの 3 割についてはどうかというようなことでございます。じんじんメールは登録制度でございますので、学校からの案内で保護者が登録をします。利用形態も緊急的なこと、学校行事等を流して再確認のかたちもあると思います。そのへんは入っていないのはどうしようもないというかたちの捉え方になりますので、あとは学校側からの学級での連絡網、そういったものを生かして入っていない世帯には届ければと考えています。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 分かりました。今のところクレームなどがないということは、うまくいっていると理解します。

続いて(2)導入にあたり他業者とのシステム比較はしたのかという点ですが、那覇市や浦添市で同様なシステムのメーリングサービスを無料で利用しているとの情報を得ました。もしも無料で使えるのであれば、南風原町でも検討してはどうかという質問です。それで浮いた予算をぜひフィフティ・フィフティプログラム等で P T A や学校への予算を増額してもらいたいということでの質問です。よろしく願いいたします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 ただいまの学校から配信するメールについて、他市町村で無料のメールがあるというようなご質問でございました。それにつきましては、隣町村全部ではないのですが他のメールシステムが入っている所の状況を確認しますと、町としては無料ですけれども、実質的には P T A 関連の口座の振替等を銀行に集約してもらって、それをしてもらったならそのメールが使えると、その会社のシステムのメールが使えるというかたちのようですので、実質的には無料ではなくて振込手数料あたりの恩恵がそのメールを持っている会社のほうに行っているのだと解釈をしています。それで無料ではないのではないかという考え方を持っています。それから、その浮いた費用を他へ回せないかでございますが、お互いが予算を付ける予算編成におきましては、使用しなかった費用を他に回すというように編成してございません。使うところに予算を付ける。必要がなくなったところは削減をして全体的な見直しをするというような視点を持っていますので、今のところその考え方はしていません。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。無料でいいかと思ったら実は条件があったということで、なかなか難しいことが分かりました。どうもありがとうございます。次にいきます。

質問 3. 翔南小学校区の翔南学童について (1) 翔南学童は 4 小学校のなかで唯一、校内の空き教室を利用しているがそのメリットは何か。(2) 翔南小学校区内に地域で何カ所か学童の運営が始まっている。また、将来、翔南小学校の児童数が増えた場合、そのことで翔南学童クラブが教室を利用できなくなる恐れはないか。以上、よろしく願います。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 3 点目の翔南小学校区の翔南学童について (1) にお答えします。メリットとしては、同クラブが平成 25 年に実施した利用者アンケートから、校外に移動の必要がなく安全だから、校内の広い敷地・施設を利用して活動できるからが挙げられております。また、運営側としましては、施設使用料が免除されている点が挙げられております。(2) についてです。町の学童クラブの新規設置については、アンケートによる町民ニーズを踏まえて策定された南風原町子ども・子育て支援事業計画に沿って進めており、平成 31 年度までに新たに 7 カ所の設置を望む町民ニーズがあります。そのうち現時点で 6 カ所の設置が見込まれており、そのなかには翔南区域も 2 カ所含まれております。ご質問の翔南小の児童数が増え、空き教室が使用できなくなる場合にはその分の事業を他の学童クラブで受け入れることとなります。以上です。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。預けている保護者の満足度も高く、運営側もメリットが大きいことが分かりました。その点を受けて (2) の質問にいきます。昨年度も翔南小学校区内に翔南第二学童クラブの施設建設の要望を取り上げました。現在、校区内で学童クラブが複数運営を開始するとの答弁で、今後、学校内に翔南第二学童クラブ施設を造って欲しいとの要望にはどう応えるのでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 ただいま副町長からも説明がございましたように、学童の設

置数は町民ニーズに沿って子ども・子育て支援事業計画の中で平成 31 年度までに 7 カ所と明記されております。そのなか 6 カ所、またその 6 カ所のうち、予定されているなかで 2 カ所が翔南校区に民間の学童誕生が予定されております。残る 1 園につきましても、民間進出が早期に見込まれます。やはり民間がこれだけ出てくるものに関しては、われわれが施策として取っている家賃の半額補助が大きく影響しているものと思っております。よって計画の 7 カ所が早期に解決しますので、現在のところ翔南小学校内への学童の設置は厳しいものと考えております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 施設支援に関して、翔南学童クラブとの教育委員会の契約形態はどのようなになっているのか資料がありましたら教えてください。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 行政財産を使用する許可証の出し方をしてございます。1 教室の使用許可の概算というかたちでやっています。使用の内容としましては、翔南学童クラブの活動としての専用使用で、1 年間単位でやっています。平成 23 年から貸しており、1 年ずつの更新というようなかたちにしてございます。そのなかで施設の使用料は免除してございます。それから、そこで使う電気料、水道料は納めていただき使用許可をしてございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 分かりました。どうもありがとうございます。翔南学童クラブについては、毎年度、保護者会からの申請によって、教育長が発行する行政財産使用許可証によって仕様が認められ、かつ使用料が免除されていることが分かりました。また、将来において翔南小の児童が増えて空き教室がなくなった場合には、使用の取り消しが明記されているということでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 許可証には、その取消の要綱はございません。使用の期間として 1 年間単位でございますので、もし必要であれば更新、それから期間がきたら終わりという考え方をしているようであります。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 次の更新がないということですね。相手が納得してもらえる、居座られるというようなトラブルにならないようにぜひお願いしたいと思います。今後、児童数が増えて施設の使用更新がなされない場合のことも想定して、その受け皿の意味からも計画どおりに翔南小学校区内の学童クラブ設置を推進するとともに、現行のように公的施設を使用することで保護者のメリット、保育料のメリットが生じたかの点は、午前の浦崎議員の質問の際にも話がありましたけれども、沖縄県内の学童クラブにかかる保育料が高額になってしまうという課題解決になっているのかどうかという点ですが、その点も検証しておくことを指摘して質問 3 を終わります。

続いて質問 4. 南風原町役場職員、社協職員の勤務状況や労働条件は適切か。(1) 南風原町役場はいつも夜遅くまで庁舎内の電気が赤々と点いている。特に教育委員会はまるで不夜城のようなイメージである。職員を増やすべきではないか。(2) 町の関係福祉団体である社協は、社会情勢の変化に伴い地域課題が増加し国からの重要施策が増え続けている。しかし、肝心の職員はここ 10 年間、正規職員の新規採用がないと聞いた。対応するために嘱託職員は増えても限られた権限しか与えられていない。正規職員に責任が増加していると思うが町はどう考えているか。よろしくをお願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 4 点目の南風原町役場職員、社協職員の勤務状況や労働条件は適切か(1)についてお答えします。住民の行政に対するニーズの多様化、各制度改正への対応、さらに本町の人口増加による事務量は確実に増加しています。そのことから、職員の増については財政事情等を含め総合的に検討する時期にきていると考えております。(2)についてであります。町社会福祉協議会においては、平成 13 年度以降職員採用がなく、非正規職員の増により活動を行っております。現在は、町委託費用を含め約 60 事業を進めておりますが、これを指揮監督する職員が不足しており正規職員への負担増となっていることから、正規職員の増員要望が出ております。町としても今年度から始まった生活困窮者自立支援の対応や次年度委託予定の生活支援コーディネーター事業なども含め、実施計画での議論も踏まえ対応をしてみたいと思います。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 どうもありがとうございました。昨日の照屋仁士議員の質問に対しても検討してもらえるとということで肯定的に受け止めておきたいと思います。ぜひお願いします。それから、昨日の答弁でも適正な人事配置と外部委託もしながらという話で、

それが総合的な検討に入ると思うのですが、その外部委託に関連する次の質問が（２）となっています。社協の残業や休日出勤について調べたことはありますか。確認したいと思えます。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 社協職員の超勤に関して平成 26 年度の調査が上がっております。7 名の一般職員の超勤が月平均で 29 時間 30 分という結果が出ております。休日出勤も集計が出ておりまして、年間 13 日となっております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 数字的にはどう受け止めればいいのですか。多いのか少ないのか。よろしくをお願いします。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 全体はこれからなのですが、われわれが依頼して社協が取ったデータがございまして、私が把握しているこども課と比較してやはりかなりの残業だと実感したところがございます。休日出勤もかなり出ているのだなと実感したところがございます。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 ありがとうございます。そもそも社協の正規職員の採用に関して町の権限はあるのかどうか、その辺も確認したいと思います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。まず社協の運営に関しましては、町から運営補助が出ておりまして、平成 27 年度では 7,300 万円あまり、そのうちの 7,100 万円、ほとんどが人件費でございます。ですから、そのように町から人件費を出していくわけですから、実施計画等で事前に採用などは計画的にやっていかなければいけないということで当然、町と協議が必要になってくると認識しております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 丁寧な説明、ありがとうございました。出勤状況のデータからも分かるように、かなりの残業があると、さらに休日出勤も多いと感じました。町の福祉政策の推進に共に頑張っている社協職員のなかで、今ばりばり仕事をしている正職員の皆さんは、第四次総合計画策定の住民会議でも町行政職員の皆さんと同じように日常業務を終えて参加してもらい、10 年後の南風原町を良い町にしようと手弁当で会議に加わって一緒に議論していたことが今でも思い出されます。あのころの行政職員、町民との協働によって町内の課題のあぶり出しや意見交換からの気付きが今の彼らのモチベーションになっていることは去った第 6 回町社会福祉大会シンポジウムでの活動報告からも十分伝わりました。平成 27 年度からスタートした生活困窮者自立支援の事業も、第 6 回町社会福祉大会で確認されたように、今後該当する方々が増えていくことは間違いなく、さらに社協の業務は増えていくと思われます。そのような状況を考えて、社協の要望に真摯に対応していただくよう要望して質問を終わります。

最後の質問 5. 南風原高校郷土芸能部と観光協会のタイアップでアフター M I C E への新事業の可能性について (1) M I C E 施設でのイベント等が終わった後、観光的な要素を伴ったお金を落とす行動をアフター M I C E と言います。インターネットで検索すると、アフターコンベンションという表現もよく目にしますが、町はアフター M I C E への施策を検討しているか。(2) 中央公民館黄金ホールで飲食しながら南風原高校郷土芸能部のパフォーマンスを鑑賞することは非常に魅力的なメニューである。観光協会の収入確保にもつながる可能性もあり、南風原高校にとっても生徒の活動機会や将来のビジネスへの素晴らしいメリットがあると思う。町長の考えはどうか。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 南風原高校郷土芸能部と観光協会のタイアップでアフター M I C E への新事業の可能性について (1) についてお答えします。アフター M I C E への施策は、現在のところその M I C E そのものの計画がまだ具体的に明らかになっていない時点で、町は現時点での検討はやっておりません。M I C E での施設運営やイベント等がどのように行われるのか、情報が把握できていませんので情報の把握に努め当該施設の効果の本町のまちづくりにどのように有益なかたちで反映させていくのか、今後さまざまなかたちで検証を行ってまいります。

(2) についてであります。観光協会と南風原高校とのコラボは、現在一部実施していますが、アフター M I C E への新事業としては、アフター M I C E の影響やターゲット対象の観光客、南風原高校郷土芸能部などの意向等も確認したことがありませんので事業プランとしては現在検討しておりません。今後の課題だと思っております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 どうもありがとうございました。(1)は了解です。(2)のほうがちよっとつれないと言いますか、けんもほろろと言いますか。現時点であまり前向きに受け取れない答弁という感じがしました。自分としてはなかなか良いアイデアではないかと思ったこの質問のきっかけになったのは去った 11 月 3 日に開催された琉球絃組の創立 40 周年記念式典の後に行われた祝賀会で、南風原高校郷土芸能部の演舞を鑑賞することができたことでした。演舞した生徒たちのいきいきとした目の輝きにもものすごく感動して、東京の国立劇場でも披露したという内容も非常に見応えがあり素晴らしかったと思います。ちょうどお昼の弁当をいただきながら鑑賞できた時に、黄金ホールでディナーとかそういうものを食べながら演舞を見れる、そういうメニューがあれば観光客だけではなく地元の南風原町民にもものすごくいい刺激になるのではないかという思いがあります。琉球舞踊で県立芸大を卒業してもなかなか専門職で食っていけない現実問題があることも聞きました。このアフター M I C E のメニューがもし確立できれば、その問題解決もできる可能性もあり、それが南風原町中央公民館の黄金ホールでできるとなれば、将来ハワイのポリネシア文化センターに負けない観光施設になるのではないかと考えているのですが、町長の見解はいかがでしょうか。よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 それではお答えします。確かに琉球絃組 40 周年記念のなかで南風原高校郷土芸能部の皆さんが披露してくださいました伝統芸能については、私も非常に感心した次第でございます。今後も南風原町の観光関連と結び付けてどのようにやればいいのか今後慎重に考えるべきだと考えております。ただ、あくまでも高校生ということがありまして、事業関係にどこまで高校生が携われるのかについても今後の課題ではなかろうかと思っております。また、先ほど答弁にありまして、M I C E そのものがまだ与那原町の東浜にという位置的なものしか情報が私どもに入ってきておりませんので、今後の M I C E の進捗に伴いまして町としましても今後施策に取り入れて、M I C E をいかに南風原町において有意に進めることができるか今後の大きな課題ではなかろうかと思っております。その進捗に伴いまして、町としましても施策を制定していきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4 番 大宜見洋文議員。

○4 番 大宜見洋文君 答弁ありがとうございます。南風原高校郷土芸能部が難しければ、芸大の高嶺先生も南風原町にお住まいですので、そのへんとのコラボもできれば、ハワイ

のポリネシア文化センターのように琉舞や伝統芸能を鑑賞しながら南風原町内で生産された食材を使ったゴージャスな料理とか琉球料理を堪能できる施設ができれば、私たち南風原町が沖縄の伝統芸能で名実ともに平和の発信拠点となって、ともに創る黄金南風の郷、南風原町のブランドも価値も一層アップするのではないかと、施策として実現することを期待して私の質問を終わります。ありがとうございました。